

通告に従いまして質問させていただきます。

今回の質問は、

- ・ 乙訓ふるさとふれあい駅伝について 4点
- ・ 長岡京市の外郭団体について 4点

以上、2項目、9点の質問をさせていただきます。

理事者の皆様には前向きなご答弁をお願いします。

今年も小学生の笑顔が乙訓二市一町を駆け巡りました。先日開催されました、第7回乙訓ふるさとふれあい駅伝（第21回乙訓地方小学生駅伝大会）は、乙訓地方全18小学校のうち長岡第九小学校が優勝し、昨年に引き続き長岡京市の小学校が優勝することができました。勝利する喜び、負ける悔しさ、周りからの信頼を背負う勇気、競技に出場する友達を応援で支える強さ。競技が終わって閉会式場に集まってきた子どもたちの表情は様々ですが、皆一様に目を輝かせており、これらの体験が明日の日本を支える人材を育むのだなと、感慨深く見守らせていただきました。

この乙訓ふるさとふれあい駅伝は、21年前に乙訓地方小学校長会の呼びかけで開催され、当初は長岡第八小学校の周りを周回するコースを取っておりましたが、6年前より大山崎小学校をスタートして、乙訓地方の街道を通り、向日市民体育館ふれあい広場に至る9.2kmのコースを走る大会へと発展しました。

大会の開催にはPTAの皆様をはじめとする沿道警備のボランティアや向日町警察署の皆様、運営を支える学校の先生方、最近では小学校の卒業生である高校生達もゴール地点の手伝いに来てくれて、数多くの方々の協力によって支えられています。私が私的に所属する乙訓青年会議所も、大会が二市一町を巡るコースへと発展した折に、30周年の記念事業として沿道警備を主管し、以来毎年沿道警備を担当しています。私も、この大会のコース拡大の当初から沿道警備のマニュアル作成や、当日の設営・撤収、ボランティアの皆様との連携等のお手伝いをさせていただいております。

二市一町のコースへと発展した当初は、ボランティアの皆様やコース周辺の地域の皆様の理解を得られなかったり、ドライバーの皆様からの強いお叱りの声や、一部先生方の反対もありましたが、最近では大会の開催前に地域を回らせていただくと「もう駅伝の季節やね」という声をいただけるようになり、練習で路上を走っている児童に「頑張ってるや」という声をかけている地域の方々を見かけるようになり、正に地域で盛り上げる大会へと成長しつつあるのではないかと感じております。

しかしながら、昨年くらいよりこの駅伝大会の継続的な開催がなされるのかどうかについての不安の声をPTAの方や、先生方から聞くようになりました。というのも、昨年さらにその工事が着工しましたが、これが完成した後は二市一町を巡るコースを取れな

くなるために駅伝大会が取りやめになるのではないかと不安を感じていらっしゃるのです。

そこでまず質問します。

- ・ 長岡京市としてこの駅伝大会をどのように捉えていらっしゃるのか教えてください。
- ・ 現時点で所管の警察とどのような話が持ち上がっているのか教えてください。

とは言うものの、完成まで少し先の話になるので、警察も具体的にどのような対応を行うかは決まっていないでしょうから、これは特に主催者の一人であります長岡京市教育委員会にお尋ねしたいのですが、

- ・ 今後の継続開催に向けてどのようにお考えなのか教えてください。

例えば、現在のコースを取ることができなくなった場合は、コースの変更を行いながら継続開催を行う、など具体的にお示しいただけるとありがたいです。

この駅伝大会は、やはり地域の皆様の協力なしには開催の成功はなしえません。競技コースの安全確保のために路上の辻々に立っていただくPTAボランティアの方々が約290名。ボランティア要員の方々をサポートする区間のリーダーが40名。信号操作や交通量の多い交差点に立っていただく警察官の方や交通安全協会の皆様、緊急時対応や競技後の児童の健康管理のためのお医者様、さらに中継地点の運営やタイム測定を担当していただいている先生方、等々数え合わせると500名くらいの皆様の協力によって支えられています。

そのような運営の中で今年は少しトラブルがありました。長岡京市内の地点で、警備要員となっている方4名がいらっしゃらず、当日その地点に危うく穴が空きかけてしまいました。幸い、その地点を担当されている小学校の緊急の手配や、当日飛込みでボランティア参加していただいた市民のご協力によって何事もなく終わりました。原因を調べてみると、開催の2週間前の11月16日に実行委員会で最終の打ち合わせを行った折に、警備要員に4名ほど穴が空いてしまったが、その穴埋めを要員の手配を行っていらっしゃる小体連から当該の小学校へ伝達できていなかったというものでした。連絡体制の不備は教訓として今後の運営改善に生かせば再発を防ぐことができますが、このトラブルの根本は協力していただける人手にあるのではないかと思います。

この駅伝大会は乙訓地方の「ふるさと」「ふれあい」の駅伝と名前を關しております。地域とのふれあいを増やし、ふるさと意識を高揚させていくためには、やはり学校関係者だけでなく地域の皆様に協力していただくことが一番だと感じます。今後、長岡京市内のコース沿道となっている地域諸団体の皆様に協力を呼びかけてはと思うのですが、

- ・ この提案についていかがお考えでしょうか

以上、1項目4点質問させていただきます。

二項目目、外郭団体について質問させていただきます。

本日は時間もございませんので、この項に関しましては要点のみ手短にお伺いいたします。

まず、前々回の6月議会において質問させていただきました、新公会計制度にまつわる点ですが、私の再質問に対して丹羽企画部長から財務書類の連結対象として外郭団体7団体7法人、一部事務組合も連結対象となっているとお答えいただきました。

総務省の連結財務諸表の手引きによりますと、一部事務組合は原則として規約に基づく当該年度の経費負担割合に応じて比例連結を行うとあります。

そこで2点質問します。

- ・ 新公会計制度における外郭団体との連結割合はどのように反映されるのでしょうか。一部事務組合の話も出てきておりましたので、併せて教えてください。
- ・ 現在、これらの連結財務書類の作成進捗状況について教えてください。

長岡京市の外郭団体7団体のうち、6つが財団法人であります。今年の第3回定例会の祐野議員の質問の中で、財団法人の内4つの団体について公益社団の取得申請予定を企画部よりお答えいただいております。しかし、一般財団法人を目指している(財)乙訓勤労福祉サービスセンターと、公益財団法人を目指している(財)長岡京市緑の協会については申請時期を現在検討中とお答えいただきました。法人制度改革におきましては、定款の変更や、年度途中で新体制へ移行する場合一度会計を閉じなければならない等の事務作業が伴うため、平成25年に向けての改革を行うならば、リミットが近づいております。

そこでお伺いいたしますが、

- ・ この2団体の移行申請予定がどのようになっているか教えてください。

(財)乙訓勤労福祉サービスセンターは一般財団法人を、その他の団体は公益財団法人取得を目指しております。公益財団法人と一般財団法人、(財)乙訓勤労福祉サービスセンターは法人格において他の5団体と異なることとなります。

そこで市の基本的なスタンスをお尋ねいたしますが、

- ・ 運営補助金を支出している団体に対して、法人格の違いによらずこれまで通りの支出を行っていくのかどうかについて教えてください。

厳しい経済状況の下、今後も益々の財政効率化を図っていかねばなりません。そこで最後にお尋ねいたしますが、

- ・ 補助金あるいは負担金といった市から支出されるお金のスリム化に関してどのようなお考えなのか教えてください

以上、2項目9点、最初の質問を終わらせていただきます。